

科目名			分野	教育内容	
化学			基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
授業の目的	医療関連職種に共通する基礎知識を学ぶ上で必要な化学の基礎的事柄を理解する。				
到達目標	口腔に特徴的な唾液やプラークの構成成分、さらにそこで生じる現象を生化学的に理解できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 化学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容		
授業計画	1・2	化学の基礎概念 物質とは	純物質 同位体	原子 イオン	構造式
	3・4	物質とは 気体	原子量 物質の3態	分子量 ボイルの法則	物質量 シャルルの法則
	5・6	気体	アボガドロの法則 分圧 溶解		
	7・8	物質 溶解	濃度の計算 飽和水蒸気圧	蒸発と沸騰	
	9・10	物質 溶解	浸透 酸とアルカリ	中和	p H
	11・12	酸化 還元	酸化数 金属のイオン化傾向		
	13・14	有機化学 ヒトの組成	有機化学の歴史 糖質	構造異性体 脂肪	タンパク質
	15	演習	演習		

科目名			分野	教育内容	
人間関係とコミュニケーション			基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	2	30	講義	○
授業の目的	社会に出て役に立つ考え方を学び、身につけ実践できるようになる。				
到達目標	コミュニケーションについて定義、方法を学ぶ。コミュニケーションに関わる心理的な理論を知る。ヘルスカウンセリングを理解する。				
教科書	資料配信				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	コミュニケーションの定義	定義について説明する
	2	基本的対話スキル	聞く、話すの基本、上手な質問のスキル
	3・4	グループでの会話の基本	グループの会話の基本
	5・6	自己表現スキル	交渉と説得のコミュニケーションについて説明する 上手な断り方、上手な頼み方
	7	トラブルのもととなる感情への対処法	怒りの感情の取り扱い方、怒りの伝え方
	8・9	社会的スキル 対人行動	基本的な社会的スキルマナー、仕事に対する姿勢 ビジネス文書の意義
	10	その人らしさの心理	パーソナリティーの特徴
	11	考える心	思考の働きの概説
	12	心の発達	心の発達に関わる要因 対人関係に関わる心理的要因と行動
	13・14	カウンセリング	話し手と聞き手の役割について説明する
	15	医療コミュニケーションについて	医療安全に必要なコミュニケーション

科目名			分野	教育内容	
医療英語			基礎	科学的思考の基盤	
				人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員に
1	前期	2	30	講義	×
授業の目的	歯科医療について最低必要な英語用語を学び、臨床現場で英語を母国語とする外国人に対する対応力を身につける。				
到達目標	初歩的な解剖学の骨・臓器に関する英語表記と構造と機能を理解する。また英語を話される外国人の方と最低限のコミュニケーションをとり、治療、指導に関する説明が歯科衛生士側からできるようになる。				
教科書	プリント配布				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	骨の名称と英語表記① 英語の習得	上肢に関する骨の名称と構造を理解する
	2	骨の名称と英語表記② 英語の習得	下肢に関する骨の名称と構造を理解する
	3	消化器系の名称と英語表記① 英語の習得	上部消化管の名称と構造を理解する
	4	消化器系の名称と英語表記② 英語の習得	下部消化管の名称と構造を理解する
	5	消化管以外の臓器の名称と英語表記 英語の習得	消化管以外の臓器の名称と構造を理解する
	6	口腔に関わる構造物の名称と英語表記① 英語の習得	口腔内の構造物の名称と構造を理解する
	7	口腔に関わる構造物の名称と英語表記② 英語の習得	口腔内の構造物の名称と構造を理解する
	8	咀嚼に関わる構造の英語表記 英語の習得	咀嚼に関わる骨や筋肉を理解する
	9	歯科医院での受付の対応① 英会話	問診時の情報収集を英会話形式にて習得する
	10	歯科医院での受付の対応② 英会話	歯科予約時の対応を英会話形式にて習得する
	11	歯科医院での受付の対応③ 英会話	患者に対して治療方針の説明を英会話形式にて習得する
	12	歯科医院での受付の対応④ 英会話	緊急時の患者への対応に関して英会話形式にて習得する
	13	歯科医院での受付の対応⑤ 英会話	患者に対して歯科衛生業務を英会話にて習得する 単位を選別
	14・15	歯科医院での受付の対応⑥ 英会話	歯科医への報告事項を英会話にて習得する

科目名			分野	教育内容	
社会学			基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	2	30	講義	×
授業の目的	医療制度や医療者などについてどのように変化がみられるのか、なぜ変化してきているのか、医療や健康に関する様々なトピックスを通して学ぶ。				
到達目標	社会学的観点から医療に関する問題について学ぶ。				
教科書	資料配布				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	社会福祉総論	社会保障制度 社会福祉
	2	社会福祉総論	社会福祉六法
	3	社会福祉各論	包括扶助制度
	4	社会福祉各論	児童福祉制度
	5	社会福祉各論	母子父子寡婦福祉制度
	6	社会福祉各論	障害者福祉
	7	社会福祉各論	身体障害
	8	社会福祉各論	知的障害 雇用促進
	9	社会福祉各論	精神障害
	10	社会福祉各論	障害者の総合的支援
	11	社会福祉各論	高齢者の福祉
	12	社会福祉各論	健康日本21 福祉施設
	13	社会福祉各論	高齢者医療
	14	社会福祉各論	高齢者介護
	15	社会福祉各論	地域包括ケアシステム

科目名			分野	教育内容	
情報処理			基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	2	30	講義	×
授業の目的	パソコンによる基本的な作業のための知識の習得を目的とする。				
到達目標	ビジネスの場におけるパソコンの取り扱いを身に着ける。 ワード・エクセルを用い文章作成や表計算の基礎的な記述を身に着ける。 パワーポイントを用いプレゼンテーション資料の作成の技術を身に着ける。				
教科書	プリント配布				
評価方法	学修成果評価				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1～3	パソコン基本操作	用途とその背景 起動、入力、保存 コピー、削除、設定
	4～7	文書作成	形式・印刷・文章入力など 企画案内、議事録、通達、書類作成など 図表やイラストの挿入など 課題作成
	8～11	表計算	数値入力 数値計算 数値図表化 課題作成
	10～14	プレゼンテーション	スライドの作成 スライドの編集 スライドの発表
	15	まとめ	情報処理まとめ

科目名			分野	教育内容	
解剖学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義、実習	○
授業の目的	解剖学は正常な生体の構造を学ぶ学問であり、目標としてはプロフェッショナルになるために必要な基礎知識を身につける				
到達目標	歯科衛生士として必要な、人体を構成する細胞、組織の基本的構造とその働き、人体の発生の基本を理解する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業項目
授業計画	1	序章	1－人体の構造と機能を学ぶにあたって(P1-6)
	2	I 編1章 細胞と組織	1－細胞 (p14-20)
	3	I 編1章 細胞と組織	2－組織 (p22-31)
	4	II 編1章骨格系	全身 (p46-57)
	5	II 編2章筋系	全身 (p58-59,67-74)
	6	II 編3章消化・吸収	消化器の構造 (p87-97)
	7	II 編4章循環	全身の動脈系・静脈系・胎児循環・リンパ・脾臓 (p127-143)
	8	II 編5章神経系	中枢神経系・脳の血管 (p143-145,149-151,155-158)
	9	II 編 5 章神経系 II 編 6 章呼吸	末梢神経系 (p159-165) 呼吸・呼吸器の構成 (p171-179)
	10	II 編7章感覚 II 編11章生殖	外皮・感覚器の構造 (p189-204) 生殖器構造 (p234-236)
	11	口腔解剖 I 編 2 章 口腔付近の解剖	口腔とは (p10-18) 口腔を構成する骨 (p18-34)
	12	口腔解剖 I 編 2 章 口腔付近の解剖	口腔を構成する骨 (p18-34)
	13	口腔解剖 I 編 2 章 口腔付近の解剖	頭頸部の筋と作用 (p34-42) 顎関節 (p42-45)
	14	口腔解剖 I 編 2 章 口腔付近の解剖	口腔付近に分布する脈管系 (p45-56)
	15	口腔解剖 I 編 2 章 口腔付近の解剖	神経 (p56-67)

科目名			分野	教育内容	
生理学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
授業の目的	ヒトの生命現象を機能的側面から考察し、生体のホメオスタシス（恒常性）維持にかかる働きをミクロからマクロに至る幅広い視野で学ぶ。またそれらの機能が体内・体外の環境変化に応じて常に最適解を導くよう動的に作用できる仕組みを知る。生体としてのヒトを対象とする医療は、局所的な知識のみで対応できるものではない。根拠に基づく医療を提供するため、生理学の講義では全身のダイナミクスを総合的かつ科学的に理解し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。				
到達目標	1.生体のホメオスタシス維持について説明できる。 2.生体の運動機能・感覚機能・自律神経機能について説明できる。 3.内分泌系の作用機序と生体制御機構について説明できる。 4.体液の分類およびその産生と機能について説明できる。 5.呼吸器・循環器・消化器・生殖器の機能と制御機構について説明できる。				
教科書	歯科衛生士テキスト 生理学 学建書院				
評価方法	筆記試験				
	回数	項目	授業内容		
	1	生理学の意義・細胞	1.細胞生物学を学ぶ意義と生命現象の特徴について概説する。 2.細胞ホメオスタシス（生体恒常性）について説明する。 3.細胞の基本構造と細胞内小器官の機能について説明する。 4.細胞の基本的な機能（受動輸送、能動輸送ならびに興奮および電気現象）について説明する。		
	2	体液・体液の循環（その1）	1.血液の組成について概説する。 2.血漿の組成について説明する。 3.血球の種類と機能について説明する。 4.血液凝固の機序について説明する。 5.血液型（ABO式、Rh式）の分類方法について説明する。 6.リンパ液および脳脊髄液の機能について説明する。 7.血液循環について説明する。 8.筋の特性について説明する。 9.拍数、心拍出量、脈波、心音について説明する。 10.臓器の電気現象（心室筋細胞の活動電位、心電図の基本波形）に		

授業計画	3	体液の循環（その2） ・呼吸・消化および吸収	1. 血圧について説明する。 2. 血液循環の調節機構について説明する。 3. 心臓の機能および循環について概説する。 4. 呼吸と内呼吸について概説する。 5. 呼吸量の内訳について説明する。 6. 胸式呼吸と腹式呼吸について説明する。 7. ガス交換の仕組みについて説明する。 8. 血液の酸素解離曲線について説明する。 9. 呼吸運動の調節機構について説明する。 10. 消化の意義について概説する。 11. 消化管各部での消化運動および消化酵素とその働きについて説明する。 12. 消化運動と消化液の分泌機構について説明する。 13. 栄養素の吸収過程について説明する。
	4	尿の生成および排出 ・代謝・体温	1. ネフロン（腎小体）の構造と機能について説明する。 2. 尿の一般性状について説明する。 3. 尿の生成機序について説明する。 4. 体液平衡の機能調節について概説する。 5. 尿機構について概説する。 6. 代謝のエネルギー量について概説する。 7. 体温の変動とその原因について説明する。 8. 熱の産生機構と放散の機序について説明する。 9. 汗腺の種類と発汗の機序について説明する。
	5	内分泌・生殖	1. 内分泌器官の構造と機能について説明する。 2. 各種ホルモンの調節作用について説明する。 3. 各種ホルモンの作用および機能異常について説明する。 4. 女性の性周期変化と性ホルモンの関係について説明する。 5. 妊娠・分娩と性ホルモンの関係について説明する。
	6	筋（その1）	1. 筋の種類について概説する。 2. 骨格筋収縮の種類とその過程について説明する。 3. 骨格筋の収縮の機序について説明する。 4. 筋電図について概説する。 5. 筋筋単位について説明する。
	7	筋（その2）・神経（その1）	1. 筋の種類とその特性について説明する。 2. 神経線維の基本構造と分類について説明する。 3. 興奮伝導の原則について説明する。 4. ナプスにおける興奮伝達について説明する。 5. 神経伝達物質について説明する。 6. 神経系の分類について概説する。 7. 自律神経機構について説明する。 8. 脳反射について説明する。
	8	神経（その2）・感覚	1. 脳幹（中脳、橋、延髄）の機能について説明する。 2. 脳床下部の機能について説明する。 3. 脳の構造と機能について概説する。 4. 脳皮質の構造と機能について概説する。 5. 感覚の分類および内容について説明する。 6. 感覚の一般的特性について説明する。 7. 特殊感覚（味覚以外）について説明する。

科目名			分野	教育内容	
生化学			専門基礎	人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	×
授業の目的	医療関連職種に共通する基礎知識を学ぶ上で必要な化学の基礎的事柄を理解する。				
到達目標	口腔に特徴的な唾液、プラークの構成成分やそこで生じる現象を生化学的に学び理解する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体構造と機能2 栄養と代謝				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	化学の基礎概念	化学の基礎知識 有機化合物の基礎知識
	2	炭化水素	有機化合物の種類、構造の特徴
	3	物質の構造	酸素を含む有機化合物
	4・5	生体の構成成分	生体を構成する元素と化合物の概要 糖質の種類と構造 脂質の種類と構造
	6	タンパク質の構造	タンパク質の構成成分であるアミノ酸の構造
	7	消化吸収	体内でどのように吸収されるのか
	8	核酸	タンパク質の合成について説明数る

科目名			分野	教育内容	
口腔解剖学・組織学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	3	45	講義	○
授業の目的	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	口腔に関連する頭頸部各部位の名称と機能を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔生理学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	口腔解剖学・組織学・生理学	口腔を学ぶにあたっての概要と取り組み方
	2	口腔を作る骨	顔面ならびに口腔を構成
	3	口腔領域に存在する筋肉	頭頸部の筋の構成と機能
	4	口腔領域に存在する脈管	頭頸部の脈管の概説
	5	口腔領域を支配する神経	頭頸部の神経の概説
	6	口腔領域の内臓	口腔領域の内臓の概説
	7・8	歯の形態	永久歯の種類と特徴
	9・10		歯の形を理解する実習(スケッチ)
	11	歯の形態	乳歯の種類と特徴
	12	歯の形態ならびに構造	歯列と咬合について説明する
	13	エナメル質の構造と機能 象牙質・歯髄の構造と機能	エナメル質の基本構造 象牙質・歯髄複合体の基本構造
	14	セメント質・歯槽骨・歯根膜の構造と機能	セメント質と歯槽骨の組織学的構造と機能 歯根膜の組織学的構造と機能
	15・16	歯と歯周組織の発生	歯と歯周組織の初期発生 歯と歯周組織の後期発生
	17	歯・口腔・顔面の感覚	口腔顔面領域の神経生理学 歯と歯周組織の後期発生
	18	歯・口腔・顔面の感覚	味覚と臭覚 咬合と咀嚼・吸テツ
	19	発生・発語	発生機構の概要
	20	唾液	唾液の分泌構造
	21・22	総復習	口腔解剖学総復習
	23	テスト対策	テスト対策

科目名			分野	教育内容	
口腔生理学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	15	講義	○
授業の目的	生理学で学んだヒトの生体機能に関する知識を基に、口腔および頭頸部に特化した機能システムを学ぶ。顎運動、口腔感覚、唾液分泌などは摂食・嚥下機能に直接関与する機能でありながら、全身では見られない特殊性も有する。またヒトが言語を発する機能も口腔生理学の重要なテーマの一つである。これらの諸機能が整合性を持って総合的に働く仕組みを知る。ヒトの口腔を対象とする医療は、全身を対象とする医学的知識に加えて口腔特有の知識や理解を要求される。その特殊性を理解した上で根拠に基づく歯科医療を提供するため、口腔生理学の講義では口腔機能を総合的かつ科学的に説明し、それをアウトプットできる能力を身に着ける。				
到達目標	1.味覚を含む口腔諸器官の感覚について説明できる。 2.唾液および唾液腺の機能について説明できる。				
教科書	「歯科衛生士テキスト 生理学」 覚道幸男・吉田 洋他著 学建書院				
評価方法	筆記試験				
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	歯および歯の歯周組織の生理	1.歯の硬組織の構造と物理化学的な性状について説明する。 2.歯髓の構造と機能について説明する。 3.歯周組織の構造について説明する。		
	2	咬合および顎運動	1.歯種下顎位について説明する。 2.咬状面における切歯点の運動について説明する。 3.咬平面における切歯点の運動について概説する。		
	3	咀嚼	1.咀嚼の意義と目的について概説する。 2.咀嚼周期について説明する。 3.咀嚼能率について説明する。 4.咀嚼筋の構造と機能について説明する。 5.顎反射について説明する。 6.咬合力と咀嚼力について説明する。 7.唇、舌の働きについて概説する。		
	4	嚥下・嘔吐	1.咽頭・喉頭の構造について説明する。 2.嚥下反射について説明する。 3.歯槽顎者における嚥下咀について概説する。 4.異常嚥下について概説する。 5.嘔吐反射について説明する。		
	5	唾液腺および唾液（その1）	1.唾液腺の構造について説明する。 2.唾液の生成機構について説明する。 3.唾液分泌の神経機構について説明する。		
	6	唾液腺および唾液（その2）	1.唾液の性状と組成について説明する。 2.唾液の働きについて説明する。 3.唾液と歯科臨床の関連性について説明する。		

	7	口腔感覚	1.口腔粘膜の感覚点と感覚受容について説明する。 2.歯根膜の感覚について説明する。 3.咬合・歯の部位感覚の意義について説明する。 4.口腔の深部感覚について概説する。 5.口腔の痛覚の意義と特徴について説明する。
	8	味覚・発声および発音	1.味覚受容器の構造と機能について説明する。 2.基本味の特性について説明する。 3.味覚閾値について説明する。 4.味盲について説明する。 5.味覚の神経機構について説明する。 6.発声器官の構造について説明する。 7.発声の機構について概説する。 8.発声の性状について説明する。

科目名			分野	教育内容	
口腔生化学			専門基礎	歯・口腔の構造と機能	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	15	講義	○
授業の目的		生命現象を連続した化学反応として捉える習慣を身につけるとともに、生命維持に必要な生体分子の代謝過程、口腔諸組織や唾液の成分と機能を理解する。			
到達目標		口腔諸組織や唾液の成分と機能について理解する。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝			
評価方法		筆記試験			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	生体における構成要素	細胞の役割		
	2	歯の結合組織	歯と歯周組織 結合組織 歯		
	3	硬組織の生化学	血清中のカルシウム 石灰化の仕組み 骨代謝		
	4	石灰化	石灰化が起こる仕組みや血液中のカルシウム やリンの調節機構		
	5	唾液	唾液に含まれるたんぱく質、抗菌物質、phに影響を与える因子について		
	6	歯の堆積物	ペリクル、プラーク、歯石の組成や形成の仕組み		
	7	免疫	自然免疫や獲得免疫について		
	8	リポ多糖	リポ多糖について		

科目名			分野	教育内容	
病理学・口腔病理学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	30	講義	○
授業の目的		疾患の治療や予防のためには、疾患原因、発生機序および病態変化の理解が必要である。これらの病理学的特徴を理解するために全身に起こる疾病の概念、病院と病態に関する基本的病理学的知識を習得する。病理学で学んだ基本的病理学的変化をもとにして深い知識を習得する。			
到達目標		病気の本態、病気の原因や成り立ちを理解し病気の診断、治療ならびに予防に関する知識を習得する。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学			
評価方法		筆記試験			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	病理学概論,病因論	病理学とは 病因論		
	2	遺伝性疾患と奇形	遺伝 遺伝性疾患 奇形		
	3	循環障害	循環障害 循環障害の種類		
	4	代謝障害と退行性病変	細胞障害 変性と物質代謝障害 細胞死		
	5	増殖と修復	進行性病変の種類と意義 創傷治癒と再生 異物に対する生体の処理法		
	6	炎症	炎症の原因と機序 炎症の分類と各炎症の特徴		
	7	免疫応答異常	免疫応答 免疫応答異常		
	8	腫瘍	腫瘍の原因と発生機序 腫瘍の種類と性質 良性腫瘍と悪性腫瘍		
	9	歯の発育異常	歯の異常（大きさ、歯数、形態,構造） 歯の萌出の異常		
		歯の損傷と着色・付着物	歯の損傷の種類 歯の付着物		
	10	う蝕	う蝕の疫学と病因 う蝕の分類 う蝕の組織学的分類		
	11	象牙質・歯髄複合体の病態	歯髄炎 歯髄の退行性変化 象牙質の増生と知覚過敏症		
	12	歯周組織の病態	根尖部歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 歯周組織の病変		

授業計画	13	口腔粘膜の病変	口腔粘膜に生じる病変 全身性疾患の徴候として見られる口腔粘膜の病変
		口腔領域の 嚢胞、歯源性腫瘍	口腔領域の嚢胞 歯源性腫瘍と非歯源性腫瘍の代表的な疾患 口腔領域の悪性腫瘍
	14	口腔癌	口腔粘膜の潜在的悪性疾患 上皮異形成と上皮内癌 扁平上皮癌
		顎骨の病変	顎骨骨髓炎の種類 腫瘍様病変 顎関節の病変
		唾液腺の病変	唾液腺に生じる病変 唾液腺腫瘍
	15	口腔領域の奇形	顔面と口腔の披裂 口腔の発育異常 口腔顎顔面に異常を来す奇形症候群
		口腔組織の加齢変化	口腔組織（歯、歯周組織、顎骨、舌、粘膜、唾液腺） の組織変化

科目名			分野	教育内容	
微生物学・口腔微生物学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
授業の目的		口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。			
到達目標		人の免疫応答の流れを概説できる。口腔内の感染症の原因となる微生物の特徴を説明できる。化学療法と消毒法、滅菌法の原理と効果を説明できる。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程2 微生物学			
評価方法		筆記試験			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	感染の成り立ちと発病	微生物の種類		
	2	細菌の一般性状と病原性	感染症の種類 免疫の概要		
	3	ウイルス	ウイルスの性状 ウイルス感染症		
	4	その他の微生物	真菌について説明する。		
	5	宿主防御機構と免疫	非特異的防御機構と特異的防御機構 免疫の種類		
	6	アレルギー	アレルギー反応の分類と特徴 アレルギー反応の機序		
	7	化学療法と化学療法薬	化学療法薬の種類と特徴		
	8	院内感染対策と滅菌・消毒	滅菌・消毒の方法 院内感染の原因と予防法		
	9	口腔細菌叢	口腔常在微生物について説明する。 口腔内細菌叢の成り立ち		
	10	プラーク、バイオフィルム	プラークの形成機序 バイオフィルム感染		
	11	口腔感染症	う蝕発生のメカニズム う蝕病原細菌		
	12	歯内感染症	歯髄炎に関連する細菌 感染根管と根尖性歯周炎に関連する細菌		
	13	歯周病	歯周病の病状 歯肉炎と病原因子		
	14	その他の口腔感染症	唾液腺の感染症 口腔カンジダ症 誤嚥性肺炎		
	15	細菌培養・顕微鏡観察法	微生物を観察するための方法		

科目名			分野	教育内容	
薬理学・歯科薬理学			専門基礎	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	30	講義	○
授業の目的		近年、高齢化社会をむかえ、薬との係わり合いが密になっている。薬についての正しい知識を深めることは、健康の維持や促進、病気の予防や治療をしていく上で非常に重要なことである。薬を有効かつ最大限の薬理作用が現れるようにはどのようにしたらよいかなどを習得することを目的とする。			
到達目標		薬理学を通して基礎と臨床の接点を理解し、歯科治療に使用される薬物だけでなく、全身疾患への治療薬の知識を習得する。			
教科書		歯科衛生士テキスト 最新薬理学 学院書院			
評価方法		筆記試験			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	I 総論 1.歯科臨床における薬理学 ・ 歯科薬理学の意義 2. 薬物療法と医療における薬物	薬理学・薬理学の領域・薬物について説明する。 薬理作用の基本形式と分類 薬物療法・日本薬局方・医薬品・医薬品の分類、処方せんについて説明する。		
	2	3.薬物作用 4.薬物の作用機序	薬理作用の基本形式と分類、薬理作用と用量について説明する。洗口薬について説明する。 薬物の作用機序について説明する。		
	3	5.薬物の適用方法と体内動態	薬物の適用法の種類とその特徴、薬物の体内動態を説明する。		
	4	6.薬物の作用を規定する因子 7.薬物の副作用、有害作、相互作用	薬理作用を規定する要因、薬物を連用した場合に起こる現象について説明する。 薬物の一般的・口腔領域に現れる副作用と有害作用、薬物の併用について説明する		
	5	II 一般薬理学 2. 中枢神経系に作用する薬物	全身麻酔・催眠薬、中枢神経興奮薬、中枢神経・精神疾患治療薬について説明する。		
	6	1.末梢神経系に作用する薬物 4.緊急対応時用いる薬物	末梢神経作用薬の作用機序・薬理作用・副作用、臨床応用について説明する。 歯科治療の際に用いる緊急対応薬について説明する。		
	7	6.代謝系に作用する薬物 5.消化器系に作用する薬物	糖尿病、脂質異常症、痛風・高尿酸血症、骨粗鬆症に用いる薬物について説明する。 消化器系に作用する薬物について説明する。		
	8	3.呼吸器系・循環器系に作用する薬物	循環器系・呼吸器系に作用する薬物について説明する。		
	9	III 歯科薬理学 3.痛みに用いる薬物	痛みの特徴、痛覚の伝導路、鎮痛薬について説明する。		
	10	4.炎症に用いる薬物	炎症のメカニズム、抗炎症薬について説明する。		
	11	1.局所麻酔に用いる薬物 2.止血・抗凝血に用いる薬物	局所麻酔薬の作用機序・分類、特徴について説明する。 血液の凝固機序、止血薬、抗凝血薬について説明する。		
	12	5感染症に用いる薬物 1消毒薬	消毒薬の効果に与える因子、消毒薬について説明する。		

授業計画	13	2抗菌薬	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬について説明する。
	14	6.悪性腫瘍に用いる薬物 7.免疫調節に用いる薬物	悪性腫瘍治療薬について説明する。 免疫抑制薬・免疫賦活薬について説明する。
	15	8.腐食薬および収れん薬 9.歯内療法に用いる薬物 10.歯周病に用いる薬物 11.口腔粘膜疾患に用いる薬物 12,う蝕予防に用いる薬物	収れん薬・腐食薬について説明する。 歯内療法薬について説明する。 歯周疾患治療薬について説明する。 口腔粘膜疾患治療について説明する。 う蝕予防薬について説明する。

科目名			分野	教育内容	
口腔衛生学			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	2	30	講義	○
授業の目的	歯及び口腔の組織と全身との関連を知り、その健康と機能増進をはかり、人の健康状態と生活の質を向上させることを学ぶ。				
到達目標	口腔疾患における病因論を理解し、その予防手段の立案に関与して個人および集団における歯科保健の実践を学ぶ。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の構造・機能、歯・口腔の付着物
	2	口腔清掃	口腔清掃の意義・口腔清掃法 歯磨剤・洗口剤
	3	歯科疾患の疫学	う蝕・歯周病の疫学 その他の口腔疾患の疫学
	4	う蝕の予防	う蝕の発生のメカニズム う蝕活動性・う蝕の予防方法
	5	フッ化物によるう蝕予防	フッ化物の性状・代謝・毒性 フッ化物によるう蝕予防法
	6	歯周病の予防	歯周疾患の症状・発生機序 歯周疾患と全身疾患の関連・歯周疾患の予防方法
	7	その他の疾患	口内炎・口腔癌・不正咬合・顎関節症・口臭・ 口腔乾燥症
	8	地域歯科保健	歯科口腔保健法・健康日本21と健康増進法
	9	母子歯科保健	妊産婦歯科保健・1歳6か月児健診・3歳児健診
	10	学校歯科保健	学校歯科保健教育・学校歯科健康診断
	11	成人歯科保健	歯科保健事業
	12	産業歯科保健	歯科健康診断・職域歯科保健
	13	高齢者歯科保健	定期健康診断・口腔機能回復
	14	災害時歯科保健	災害時急性期歯科医療救護・口腔支援
	15	ライフステージの口腔保健	ライフステージごとの口腔保健管理

科目名			分野	教育内容	
衛生学・公衆衛生学			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	2	30	講義	○
授業の目的	衛生・公衆衛生学における健康観を理解し、個人および集団における総合的な健康対策を学習する。				
到達目標	健康と疾病との連続性を知り、科学的根拠に基づく予防対策を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	保健生態学の定義 健康の概念・予防医学の概念
	2	疫学	疫学の地祇及び概念 疫学の方法
	3	人口	人口の動向 人口動態・静態統計
	4	健康と環境	環境の概念 空気・水と健康 廃棄物処理
	5	感染症	感染症の成立 感染症の予防
	6	食品と健康	食中毒の疫学・予防
	7	地域保健	地域保健の概念・組織・対策
	8	母子保健	母子保健の意義・概要
	9	学校保健	学校保健の意義・概要
	10	成人保健	成人保健の意義・概要
	11	老人保健	老人保健の意義・概要
	12	産業保健	産業保健の意義・概要
	13	精神保健	精神保健・医療・福祉
	14	災害時保健	災害時の保健医療対策
	15	国際保健	国際保健の意義・概要・仕組み

科目名			分野	教育内容	
衛生統計			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	15	講義	×
授業の目的	歯科衛生士の必要な情報収集のための疫学について学ぶ。口腔の汚染に関する統計処理を学ぶ。				
到達目標	標本抽出について概説できる。統計の基本的手法と統計量について説明できる。相関、推定、検定、スクリーニング試験について概説できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	図表の種類と特徴	度数分布表、ヒストグラム
	2	代表値と散布度	平均、中央値、再編値 散布度（平均偏差、分散、標準偏差）
	3	保健情報と保健統計	データと情報
	4	歯科統計とは	統計へのスタンス
	5	推定と信頼区間	点推定と区間推定 比率尺度の信頼区間
	6	検定	検定と帰無仮説 検定の実際
	7	スクリーニングと統計	スクリーニング検査について説明する
	8	歯科疾患の指数	数量化と指数 WHOの診断基準について説明する

科目名			分野	教育内容	
衛生行政			専門基礎	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	2	30	講義	×
授業の目的	歯科衛生士の業務を行うために必要な法律を学ぶ。				
到達目標	衛生行政及び関連法規について概要を説明することができる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保険・医療・福祉制度				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	衛生行政の目的と組織	衛生行政の目的と組織について説明する
	2・3	衛生行政・法体系	衛生行政の概要 我が国の法律体系
	4	歯科衛生士と法律	歯科衛生士業務とその法的根拠について説明する
	5	衛生関係法	医療従事者の身分に関する法律
	6	歯科医師法	歯科医師法について説明する
	7	歯科技工法	歯科技工士法について説明する
	8・9	医療関係職種	歯科以外の医療関係者についての関連法規 歯科以外の医療職種の法的な業務について説明する
	10	医療法	医療法の基本的な事項について説明する
	11	その他の関係法規薬事衛生法規	薬事関連する法規の定義
	12	保健衛生法規	地域保健に関連する法規
	13	予防衛生法規	食品衛生法や感染症法の目的や定義
	14	クリニカルパス	クリニカルパスの目的
	15	PDCA	PDCAについて説明する

科目名			分野	教育内容	
歯科衛生士概論			専門	歯科衛生士概論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	30	講義	○
授業の目的	人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する。				
到達目標	歯科衛生士としての職業を理解し説明できる。 口腔をとうして全身の健康について理解し説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

		項目	授業内容
授業計画	1	概説	歯科衛生士業務について説明する
	2	歯科医療	歯・口の健康と疾病・異常 歯科医療保険を支えるもの
	3	歯科衛生士の歴史	歯科衛生士の誕生から展望
	4・5	歯科衛生過程の構成要素	歯科衛生過程とは 歯科衛生過程とプロセス、構成要素について説明する POS、SOAPの概説 観察と記録の重要性
	6・7	歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士と 歯科衛生士法 歯科衛生士の役割 関連法規 安全管理、安全保持
	8	医療倫理	歯科衛生士と医療倫理
	9	チーム医療・多職種との連携	チーム医療との概説 多職種との連携の意義 NSTについて
	10	医療従事者としての心構え	基本的義務について
	11	生命倫理	生命倫理の歴史過程と諸問題について説明する
	12	インフォームドコンセント	インフォームドコンセント
	13	QOL	歯科衛生士としてのQOLとの関わり方と向上
	14	歯科衛生士の活動	歯科衛生士活動の場について
	15	海外における歯科衛生士教育内容	海外における歯科衛生士の現状

科目名			分野	教育内容	
歯科臨床概論			専門	歯科衛生士概論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	前期	1	30	講義	○
授業の目的	患者の全体的健康状態や全身疾患を把握するための医療情報歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査及び全身の一般検査の意義と関連を理解する。				
到達目標	歯科診療の流れを理解し、その中で歯科衛生士が主体的に受け持つ役割を理解する。また、各論の授業を有機的に総合して理解できるようになる。				
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	数回	項目	授業内容
授業計画	1	歯科診療のながれの概要	歯科衛生士の役割について
	2	歯科医療の認識と対応	歯科医療の特徴
	3	歯科疾患の概要	う蝕の病因論 う蝕の進行と症状の変化
	4	ライフステージと歯科臨床	歯科的特徴と問題点 対応する領域 歯科衛生士業務 法律に基づく歯科に関連する業務
	5	う蝕の治療	う蝕の各進行段階における治療法 う蝕の予防法と実際
	6	歯周疾患	歯周治療の対象疾患及び診療内容を把握
	7	歯科補綴治療	対象疾患及び診療内容 補綴装置を装着した後の歯科衛生士の
	8	歯科保存	歯科保存学 象牙質知覚過敏症 歯冠部う蝕 根面う蝕
	9	床義歯	部分床義歯と全部床義歯について
	10	歯内療法	歯髄保存療法 歯髄除去療法 感染根管治療
	11	小児歯科	矯正治療の対象疾患及び診療内容の把握
	12	口腔外科治療	対象疾患及び診療内容の把握
	13	歯科医療の変遷	歯科医療の歴史
	14	障がい者歯科・高齢者歯科	障がい者について 障がい者歯科について 障がい者歯科と歯科衛生士 高齢者歯科の特徴
	15	歯科診療のながれの概要	今までに習得した内容を整理する

科目名			分野	教育内容	
歯科保存・修復学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	1	30	講義	○
授業の目的	歯を保存する重要性、役割を知り、潜在う蝕などの疾患に対して、保存修復で扱う処置法の内容を理解する。				
到達目標	硬組織疾患を理解し、その処置法を理解できるようになる。 保存修復分野での診療補助との関連について理解できるようになる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学				
評価方法	筆記試験				

授業計画	回数	項目	授業内容
	1	保存修復学総論	保存修復学の概要、歯の硬組織疾患 歯の硬組織の検査法
	2	硬組織疾患	種類と病態について説明する。
	3	う蝕	病態と分類について説明する。
	4,5	窩洞と修復の前準備	窩洞の分類と構成要素 防湿法、歯間分離法、歯肉圧排法、隔壁法、除痛法に関して 歯の切削とう蝕除去に必要な機材 レーザーの用途と使用方法
	6	歯髄保護	歯髄保護 仮封の目的と種類
	7,8	直接修復法-1 コンポジットレジン修復	コンポジットレジン修復の長所と短所、臨床的手順 コンポジットレジンと歯質との接着 コンポジットレジン修復の使用器材
	9	直接修復法-2 アマルガム修復、セメント修復	各種セメントの特性とその用法 グラスアイオノマーセメント修復の長所と短所、臨床的手順 アマルガム修復法の特徴
	10,11	間接修復法-1 鋳造修復	鋳造修復の長所と短所、手順特徴と適応症 合着・接着セメントの成分と手順 メタルインレー修復、合着と仕上げ・研磨 メタルインレー修復の特徴 適応症と禁忌症 手順と器材材料の組織と特徴 合着、接着材料の手順と注意事項
	12,13	間接修復法-2 セラミックインレー修復 コンポジットレジンインレー修復	セラミックインレー修復の特徴、手順、適応症と禁忌症 コンポジットレジンインレー修復の特徴と適応症と禁忌症 手順と器材材料の使用法、制作方法について説明する。
	14,15	変色歯への対応	歯の漂白とポリッシング、ラミネートベニア修復 変色歯への処置法 歯の漂白の特徴と種類と適応症、禁忌症 歯の漂白に後のメンテナンス ラミネートベニア修復の手順と器材材料 象牙質知覚過敏症の処置

科目名			分野	教育内容	
歯内療法学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
授業の目的	歯の硬組織、歯髄および根尖歯周組織などの疾患に対する予防と治療について学ぶ。				
到達目標	保存学としての歯内療法について理解する。歯内療法領域の主な疾患の概要と原因について理解する。歯周炎、根尖性歯周疾患の症状、治療法を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯内療法学総論	歯内療法の概要
	2	歯内療法領域の主な疾患の概要と原因	象牙質知覚過敏症 歯髄炎 根尖性歯周炎
	3	歯髄疾疾患 根尖性歯周組織疾患の処置	分類と症状 歯髄疾患の処置方針
	4	根尖性歯周炎	種類と特徴
	5	歯内療法特有の検査と診断	温度診 歯髄電気診
	6	歯髄保存療法	種類と特徴
	7	歯髄除去療法	種類と特徴
	8	根管治療	術式について説明する
	9	根管充填	処置について説明する
	10	外科的歯内療法	分類と術式
	11	歯の外傷について	歯の外傷の処置について説明する
	12	根未完成歯	処置について説明する
	13	歯内療法における安全対策	偶発事故の種類と事故
	14	歯内療法における歯科衛生士の役割	検査、診断時の役割 歯髄処置時の診療補助業務
	15	歯内療法に使用する薬剤	種類と取り扱い方 器具の滅菌・消毒と保管 薬剤の保管・管理

科目名			分野	教育内容	
歯周病学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
授業の目的	歯周組織の常態・病態を理解し、歯周病の症状・治療法について習得する。				
到達目標	歯周組織の構造について説明できる。歯周疾患の原因と分類について説明できる。歯周治療の流れを説明できる。歯周基本治療を列挙し、それぞれの特徴を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯周病の基礎知識	歯周病の有病状況、 歯周治療の意義、目的
	2	正常な歯周組織	歯周組織の構成要素、防御機構、再生能力、
	3	構造と機能	加齢変化
	4	歯周疾患の分類	歯肉炎と歯周炎の違い 歯肉病変、歯周病の分類
	5	歯周疾患の病因	細菌因子 宿主、環境因子
	6	歯周疾患の原因	歯周病の原因 歯周医学インプラント歯周炎について説明する
	7	歯周治療の進め方	歯周病の原因、歯周治療基本的考え方 進め方、内容について説明する
	8	歯周組織検査	一般検査による判定法 歯周組織の診査法
	9	歯周外科治療	歯周外科手術の目的と種類
	10・11	歯周病、高齢者	歯周病と全身との関連 高齢者の歯周病
	12	歯周基本治療	内容、目的、意義 プラークコントロール、SRPの目的と意義
	13	歯周基本治療再評価	暫間固定、咬合調整、習癖の修正目的と意義 歯周治療後の再評価
	14	歯周病と疫学と予防口臭	歯周病の疫学に用いる指数 口臭について
	15	メンテナンスについて	歯周治療後の再評価 メンテナンス、SPTの目的、意義、方法

科目名			分野	教育内容	
口腔外科学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義	○
授業の目的	外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。				
到達目標	口腔外科領域の疾患についてその特徴、診断法、治療法について説明できる。外科手術の際に必要な知識について理解を深め適切な介助技術を学ぶ。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	口腔外科の概要	口腔の形態の機能、口腔疾患の特徴
	2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常	歯の異常、口唇口蓋裂、顎変形症
	3	顎・口腔領域の損傷および機能障害	歯の外傷、顎骨骨折および軟組織損傷の症状と治療法
	4	口腔粘膜の化膿性炎症疾患	歯槽部、顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法
	5	顎関節疾患	顎関節の形態と機能、顎関節症、顎関節脱臼
	6	顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎骨および口腔軟組織に発生する嚢胞の種類と症状および治療法
	7	唾液性疾患	唾液腺疾患の症状と治療法
	8	口腔領域の神経疾患	顎、口腔領域の神経疾患の症状
	9	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	顎、口腔領域の良性、悪性腫瘍腫瘍類似疾患の種類と症状
	10	血液疾患	白血病、血友病、紫斑病
	11	滅菌と消毒 手術器具	清潔域・不潔域 消毒・滅菌 手指消毒法
	12	口腔外科小手術	抜歯術・歯根端切除術・膿瘍切開術・歯槽骨切開術の術式について
	13・14	局所麻酔 精神鎮静法 全身麻酔、救急蘇生法	麻酔の目的、各種局所麻酔法と施術時の注意点 精神鎮静法と全身麻酔の適応症と種類 歯科治療時の全身的偶発症とその対応
	15	周術期口腔ケア	手術前後の口腔衛生管理による手術時のトラブル防止 予防法について がんの放射線治療、化学療法による口腔粘膜炎の予防

科目名			分野	教育内容	
小児歯科学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	1	30	講義	○
授業の目的		身体的・精神的・社会的発達途上にある小児の特徴を理解し、チーム診療の役割について知識と技術を学ぶ。			
到達目標		小児の身体や小児期の口腔疾患と治療の概要について基本知識の習得 および小児歯科医療の中で担役割について理解し説明できる。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 小児歯科学			
評価方法		筆記試験			

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	小児歯科学概論	小児歯科学について 小児歯科診療と歯科衛生士の役割
	2	心身の発育	発育の概念と分類 発育の評価
	3・4	小児の生理的特徴	生理的年齢 器官の発育 精神的発達 小児の生理的特徴
	5	顔面頭蓋の発育	顎顔面頭蓋の発育 乳歯の特徴 乳歯のう蝕
	6	歯の発育とその異常	幼若永久歯のう蝕・歯の形成 歯の発育時期と形成障害
	7	歯列・咬合の発育と異常	歯列および咬合の発育 歯列・咬合の発育異常
	8	小児の歯科疾患	小児にみられる歯科疾患 先天異常
	9	子供への対応法	小児歯科と成人歯科との対応法の違いについて
	10	小児の外傷の処置	小児の歯の外傷の種類と処置法
	11	咬合誘導	概念ならびに保隙装置の種類 適応症
	12	定期診査	意義や検査項目
	13	口腔機能の発達と育成	口腔機能の発達の評価項目や訓練
	14	障がいのある子どもの発達支援	障がい児の特徴と問題点
	15	心身障がい児の歯科診療補助	小児疾患と歯科診療

科目名			分野	教育内容	
歯科矯正学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
授業の目的	歯科矯正治療に対する知識と補助技術・歯科衛生士としての役割を学ぶ。				
到達目標	矯正歯科治療の概要について説明できる。歯科矯正治療に関係する成長・発育、正常咬合、診断に必要な知識、メカニズムについて説明できる。矯正歯科診療で用いる矯正装置、器具・機器を説明できると共に、歯科衛生士の役割を理解する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業
授業計画	1	矯正歯科治療の概要	矯正歯科治療についてする
	2	成長・発育	頭蓋・顎顔面の成長発育 歯・歯列の成長発育
	3	正常咬合と不正咬合	正常咬合について説明する 不正咬合の分類
	4	矯正歯科診断	診断に必要な資料
	5	矯正歯科治療と力	症例分析 強制力と顎整形力
	6・7	矯正装置	可撤式矯正装置、固定式矯正装置 機能的矯正装置、顎外固定装置、顎内固定装置 保定装置、その他の装置
	8	矯正器材	矯正に用いる器材 プライヤーの種類
	9	上下顎の前後的關係の不調和	過蓋咬合・開口 過蓋咬合症例の治療の実際 開咬症例の治療の実際
	10	成人矯正	補助的・包括的歯科矯正治療 成人歯科矯正治療 顎変形症
	11	口腔顎顔面の形成異常と変形	埋伏歯 先天欠如歯 過剰歯
	12	矯正歯科治療時のトラブル	う蝕、歯肉炎、歯周疾患 歯根吸収 顎関節症 アレルギー トラブルへの対処法
	13	矯正歯科診療における歯科衛生士の役割	検査の補助 質問票、検査 インフォームドコンセント 矯正歯科用器具・材料の準備と取り扱い 装置装着時の補助と指導
	14	口腔保健管理	口腔保健管理 筋機能訓練法
	15	矯正治療	子供・大人の矯正治療 症例別治療の実際

科目名			分野	教育内容	
歯科補綴学			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義	○
授業の目的	歯科衛生士業務を行うために必要な歯質欠損に対する、歯冠修復と歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。				
到達目標	補綴歯科治療に関する基礎知識を習得し、説明できる。治療におけるクラウン・ブリッジ治療の実際を習得し、説明できる。補綴歯科治療における。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科補綴治療の基礎知識	補綴装置の種類と適応症
	2	歯の欠損に伴う障害と補綴治療	歯の欠損に伴う障害
	3	クラウン・ブリッジ治療の実際	支台装置とポンティックの選択 特徴および制作法
	4	有床義歯治療の実際	有床義歯の支持装置、把持装置、維持装置について
	5	インプラント診療補助概論	インプラント治療における歯科衛生士の役割 インプラント周囲組織について
	6	全身状態の評価	全身疾患 インプラント治療に対するリスク リスク管理
	7・8	インプラント治療	検査の目的と方法 治療の流れと治療計画 インフォームドコンセント チームアプローチ チームの連携 トラブルと合併症
	9	インプラント体埋入	術式の流れ 手術時のアシスタントワーク
	10	インプラント治療の医療安全	器具の滅菌管理、感染予防について 手術時の消毒滅菌
	11	インプラント補綴法	印象採得 補綴装置のメンテナンス
	12	歯科補綴治療に用いられる器材	器材の名称、使用方法、管理について
	13	補綴歯科治療における歯科技工	クラウン・ブリッジおよび有床義歯の制作方法
	14	補綴歯科治療時の衛生士の役割	検査・診断時の業務 補綴治療時の業務
	15	患者指導	補綴処置後におけるメンテナンスの重要性

科目名			分野	教育内容	
高齢者歯科・障がい者歯科			専門	臨床歯科医学	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義	○
授業の目的		障がいの概念及び障がい者・高齢者の身体的・心理的状态を理解するとともに、歯科衛生士としての基本的な心構えや在り方について学ぶ。さらに、質の高い歯科医療や口腔保健の提供が、障がい者・高齢者のQOLの向上や自己実現につながることを学び、具体的な対応方法や歯科診療の補助、健康支援方法について概説できる。			
到達目標		障がいの分類を説明でき、障がいに応じた対応方法を説明できる。 高齢者医学の目的を説明できる。高齢者の心理、社会学、行動科学、栄養学を説明できる。高齢者の基礎疾患と歯科治療時の注意点を説明できる。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 学シリーズ 障害者歯科学 歯科衛生			
評価方法		筆記試験			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	障がいの分類、基本理念	障がいの分類 障がい児・者に対する口腔保健の現状		
	2	障がいと疾患の特徴	精神発達・心理的発達と行動障がいについて		
	3	障がいと疾患の特徴	神経・運動障がい及びその他の障がいについて説明する		
	4	障がいと疾患別歯科診療の補助	障がいに対する対応方法・行動調整法（行動変容法）		
	5	発達評価について	健常児・者と障がい児・者の精神的発達や身体的発達の評価方法		
	6～8	障がい児・者における口腔健康管理	障がい児・者における口腔健康管理方法（対応方法や支援方法）		
	9	高齢社会と健康	高齢者とは 高齢者をとりまく社会的問題と環境		
	10	高齢者歯科の現状	全身管理の基礎知識 全身症状への対応		
	11	高齢者と薬剤	高齢者の口腔領域の特性 高齢者に多い口腔領域の疾患		
	12	高齢者の口腔	高齢者を支える保健、医療、福祉の基盤 高齢者の健康と生活		
	13	高齢者に対する口腔ケア	口腔のケアにおける高齢者の特徴 有病高齢者への口腔ケア		
	14	要介護高齢者への口腔ケア	要介護高齢者への対応 要介護者にみられる機能障がいとその対応		
	15	歯科衛生士の役割と医療安全	高齢者の歯科診療・歯科衛生士による口腔保健管理 診療室における高齢者との接し方、介護技術		

科目名			分野	教育内容	
歯科予防処置論Ⅰ			専門	歯科予防処置論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	3	90	講義／実習	○
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。歯科予防処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。				
到達目標	歯科予防処置に携わるための知識や技術を理解する。 手用スケーラーを机上で適切に操作できるようになる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 衛生学シリーズ 歯周病学				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科予防処置論の概要	1 歯科予防処置法の定義 2 歯科予防処置法の考え方 3 歯科予防処置の法的な位置付け 1) 歯科予防処置の内容 ①付着物、沈着物の除去 ②薬物の塗布
	2	歯科予防処置論の概要	1 正常な口腔 1) 口腔の構造 ①歯 ②歯肉 ③舌 ④小帯 ⑤口蓋
	3	口腔の基礎知識	1 歯周組織 1) 歯冠乳頭 2) 遊離歯肉 3) 付着歯肉 2 歯根膜 3歯槽骨
	4	口腔の基礎知識	2 歯冠と歯根の形態 1) 永久歯 ①切歯 ②犬歯 ③小白歯・大白歯 2) 乳歯 3) 歯式(歯の用語)
	5～7	歯科衛生介入としての歯科予防処置	1.スケーリング 1) 手用スケーラー ①シクルスケーラー (1) 構成(2) 把持法(3) 使用原則 ②キュレットスケーラー (1) 構成(2) 把持法(3) 使用原則 ③その他の手用スケーラー ④部位別操作法チャートマーキング
	8～10	歯科衛生介入としての歯科予防処置	2.机上訓練 1) シクルスケーラーの訓練 ①石膏棒の作成 ②シクルスケーラーの4原則
			③スケーラーの操作の基本 ④人口歯石の取り扱い ⑤操作法基礎訓練 (1) ストレートシクル (2) カーブドシクル

授業計画

11・12	歯科衛生介入としての歯科予防処置	3 机上訓練 1) キュレットスケーラーの訓練 ①部位別操作法 ②模型での基礎訓練
13	歯科衛生介入としての歯科予防処置	4 ミラーテクニック 1) ミラーテクニック (1) デンタルミラーの種類 (2) 使用方法 2) 各種インスツルメントの取り扱い
14	歯科衛生介入としての歯科予防処置	5 エアースケーラー及び超音波スケーラー 1) エアースケーラー (講義) ①原理と構造 ②特徴 ③操作方法
15	歯科衛生介入としての歯科予防処置	2) 超音波スケーラー (講義) ①超音波とは ②原理 ③構成 ④特徴 ⑤注意事項 ⑥インサートチップの動かし方 ⑦術者保持のバキューム操作
16～19	シャープニング	①目的・必要性 ②研磨用器具・機械の種類 ③手用研磨器具 ④ストーンの種類・特徴 ⑤研磨の原則と手順 研磨実習
20・21	歯科衛生介入としての歯科予防処置	6 歯面研磨 (ポリッシング) 講義・マネキン実習 ①歯面研磨 (ポリッシング) 講義 ②マネキン実習に向けてのマネキンの取り扱い
22	歯科衛生介入としての歯科予防処置	7 歯面研磨 (ポリッシング) マネキン実習 1) 歯面研磨マネキン実習 ①目的 ②種類 ③歯面研磨剤 ④使用器材と操作方法 ⑤注意事項
23・24	歯科衛生介入としての歯科予防処置	8 歯面清掃 (PMTC 歯面清掃器) 1) 歯面清掃 ①PTCとPMTC ②歯面清掃器
		2) 歯面清掃マネキン実習 ①歯面清掃器取り扱い ②歯面清掃器の清掃効果実験 ③ポジショニング
25・26	マネキン実習	エアースケーリングおよび超音波スケーリング 1) エアースケーラー及び超音波スケーラーの設置 2) エアースケーラー及び超音波スケーリング相互実習

授業計画	27～29	歯科衛生介入としての歯科予防処置	スケーリングマネキン実習 1) マネキンの取り扱い 2) 手用スケーラーマネキン実習 ①ブロックごとのマネキン実習 3) マネキン実習チェック
	30・31	歯科衛生介入としての歯科予防処置	ポジショニングと口腔内におけるインスツルメントの操作 1) 術者のポジショニング 2) 口腔内での材料の取り扱い ①ロール綿 ②綿球の作製と塗布 ③ポジショニング
	32・33	歯科衛生介入としてのの歯科予防処置	小窩裂溝充填法マネキン実習 1) シーラントマネキン実習 ①光重合型 ②化学重合型
	34・35	相互実習	歯面清掃器 1) 歯面清掃器相互実習 歯面研磨 2) 歯面研磨相互実習
	36・37	歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用 1) フッ化物の基礎知識 ①フッ化物とは ②日本人のフッ化物摂取量 ③フッ化物の代謝 ④フッ化物の毒性 ⑤フッ化物応用とう蝕予防処置
	38・39	歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用 2) フッ化物歯面塗布 ①フッ化物塗布法の種類 ②効果的な塗布の時期 ③使用製剤 ④フッ化物溶液の保管と使用料の確認 ⑤術式 ⑥塗布後の注意事項 ⑦その他のフッ化物応用
		歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物の応用 3) フッ化物洗口法 ①洗口法に使用するフッ化物 ②対象年齢 ③洗口回数と洗口駅の濃度 ④方法 ⑤塗布後の注意事項
		歯科衛生介入としての歯科予防処置	フッ化物応用の相互実習 4) フッ化物歯面塗布法 ①綿球・綿棒法 ②洗口法 ③その他方法 ④各手法の注意事項

授業計画	40・41	歯科衛生介入としての歯科予防処置	エアースケーリング、超音波スケーリング 1) 下顎 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 2) 上顎 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 3) 上下前歯部 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 4) 左側臼歯部 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨 5) 右側臼歯部 ①エアー、超音波スケーリング ②歯面研磨
	42・43	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	1 口腔内の情報収集 1) 口腔内の観察 2) 検査 ①歯 ・歯式 ②歯肉 ③舌 ④口腔粘膜 ⑤唾液 ⑥歯面の付着物、沈着物 ⑦歯周ポケット ⑧歯の動揺度 ⑨口臭
	44	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	口腔内の情報収集 3) 歯周組織検査 ①プロービング ②出血 ③動揺度
	45	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報分析	分析のためのデータ 歯周組織検査相互実習 1) 歯 ①歯式 2) 歯周組織 ①プロービング ②O'learyのPCR ③歯肉出血 (BOP) ④動揺度

科目名			分野	教育内容	
歯周予防処置論Ⅱ			専門	歯科予防処置論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	2	60	講義／実習	○
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。歯科用処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。				
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・技術・態度を習得し、実践することができる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 衛生学シリーズ 歯周病学				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要 歯科衛生過程を進めるうえで重要なこと 1) クリティカルシンキングの基本姿勢 2) 臨床推論 ヘルスプロモーション活動 動機付け
	2	歯科衛生アセスメント	情報収集・情報分類 1) コミュニケーション 2) 問診
	3～8	歯科衛生士アセスメント	歯科衛生診断 1) 情報の統合 2) 歯科衛生診断のタイプ 歯科衛生診断文の表し方 優先順位
	9～10	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生計画 目標の種類と目標設定 歯科衛生介入の記録と事例 SOAPについて説明する
	11	歯科衛生アセスメントとしての 情報収集と情報整理	超音波スケーリング相互実習 超音波スケーラーの取り扱い 相互実習 歯科衛生アセスメントのための情報収集と分析
	12～15	歯科衛生アセスメントのための 情報収集と情報整理	口腔内の観察 エクスプローラーの使用目的と基本操作 歯周ポケット検査 根分岐部病変の診査 その他の手用スケーラー

授業計画	16・17	歯科衛生アセスメントのための 情報収集と情報整理	口腔内診査 歯・歯列の観察 歯面の付着物、沈着物の観察 歯の動揺度 プロービング、BOP
	18～21	歯科衛生アセスメントのための 情報収集と情報整理	口臭の原因と分類 口臭検査の目的 口臭検査法の判定 口臭測定
	22	歯科衛生介入としての歯科予防 処置	スケーラーの種類と使用目的 キュレットスケーリングの復習 机上訓練 マネキン実習
	23	歯科衛生介入としての歯科予防 処置	マネキン実習チェック
	24～30	歯周病予防と観察のポイント と対策	対象者の情報収集 1) 問診 2) 口腔内写真撮影 3) 歯周組織検査 情報収集を基に分析 う蝕のリスク 歯周病のリスク 不足の情報収集と必要な指導 計画を基に歯科衛生介入および指導

科目名			分野	教育内容	
歯科予防処置論Ⅲ			専門	歯科予防処置論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	2	60	講義・実習	○
授業の目的	健康寿命の延伸に向けた、歯・口腔の健康維持・向上のために必要な知識・技術を習得する。歯科用処置では歯科疾患の特徴について理解し、歯科疾患予防のための予防処置の概念やその方法を習得する。				
到達目標	歯科衛生士に求められる専門的な予防処置の知識・態度を習得し実践することができる。				
教科書	歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯周病学 保健生態学 （医歯薬出版）				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1～6	う蝕予防処置法	う蝕活動性試験 う蝕活動性の種類と応用 1) カリエスリスクテストの実際 2) 小窩裂溝充填の臨床応用 3) フッ化物の臨床応用 4) 偶発事故の防止と対策
	7・8	臨床における歯科衛生活動	患者の基礎データ 歯周疾患 1) 患者の基礎データ 2) 目標の設定と介入の計画 3) 再評価方法 4) メンテナンスの決定
	9・10	歯科予防処置の実際	スケーラーのシャープニング 1) シャープニングの目的と必要性 2) 砥石の種類と管理 3) シャープニングの臨床応用
	11・12	歯科予防処置の実際	分析のためのデータ 1) エックス線写真の読影
	13・14	歯科予防処置の実際	PTC 1) PTC相互実習 2) 術者磨き
	15・16	口腔内の情報収集相互実習	歯式 1) 歯面の付着物、沈着物（エクスプローリング） 2) 歯周組織検査 3) 歯の動揺

授業計画	17～22	予防的歯石除去法総復習	ルーペを応用してのSRP プチピエゾの使用含む 歯周組織検査 口腔内写真撮影法 アセスメント 歯周治療計画の立案と説明 1) 患者教育 2) 口腔清掃指導 スケーリング・ルートプレーニング PMTC 事後評価と初診時の比較
	23～26	歯周治療の知識	1.インプラント周囲疾患 1) インプラント周囲炎周囲組織 2.インプラントと周囲疾患 1) インプラント周囲炎 2) インプラント周囲組織の検査
	27～30	歯周治療の知識	ペリオドンタルメディシン 1) 糖尿病 2) 歯周病と誤嚥性肺炎 3) 歯周病と血管障害 4) 歯周病と早産・低体重児出産 5) 歯周病と骨粗しょう症 6) 歯周病と肥満 7) 歯周病と関節リウマチ

科目名			分野	教育内容	
う蝕予防処置論			専門	歯科予防処置論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義／実習	○
授業の目的	う蝕を予防するための手段・処置を実験・実習を通して知識、技能ともに理解していくことを目的とする。				
到達目標	う蝕処置法（フッ化物歯面塗布法、小窩裂溝充填法）や関連項目（う蝕活動性試験、フッ化ジアミン銀塗布法、PMTC）の目的、方法、所要条件、実施上の注意事項等を説明できる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版 歯科衛				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	う蝕予防処置総説	う蝕予防処置法について う蝕予防処置法における歯科衛生士の役割 う蝕予防処置の範囲と種類		
	2	う蝕の知識について	う蝕発生メカニズムについて説明ができる プラークの成り立ちとう蝕について 歯及びエナメル質表層の知識を知る 唾液作用について		
	3	フッ化物の基礎知識	フッ化物応用の知識について 生体におけるフッ化物の応用の吸収・沈着・排泄について フッ化物の中毒について フッ化物の中毒量計算		
	4	う蝕活動性試験	う蝕活動性試験について う蝕活動性試験の種類・特徴 各検査の目的・方法・評価		
	5	フッ化物によるう蝕予防処置	フッ化物応用によるう蝕予防方法 ライフステージに応じたフッ化物応用について		
	6	フッ化物の応用	フッ化物歯面塗布法・トレー法の適応症・術式 使用薬剤の種類・取り扱い		
	7	フッ化物歯面塗布法	綿球塗布法（溶液・ゲル）について 応用後の保健指導		
	8	フッ化物歯面塗布法	フッ化物歯面塗布法（トレー法・歯ブラシゲル）について 応用後の保健指導		

授業計画	9～11	小窩裂溝充填法	材料の種類・取り扱いと術式 充填材による小窩裂溝の封鎖状態を評価 処置後の保健指導について 小窩裂溝充填法実習
	12	小窩裂溝充填法	小窩裂溝充填法実習 咬合について 各検査とOHI・DMFの関連 判定結果からう蝕予防プログラムを立案
	13	フッ化ジアミン銀の応用	マネキン上でフッ化ジアミン銀塗布法の実習 塗布後の天然歯の状態を観察評価 溶液が衣服についた場合の対処法
	14	メンテナンス	メンテナンスの必要性 う蝕のリスクとメンテナンスの必要性
	15	まとめ	う蝕予防処置法の有効性と活用について

科目名			分野	教育内容	
歯科保健指導論Ⅰ			専門	歯科保健指導論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	3	90	講義／実習	○
授業の目的	口腔保健の基礎を理解するために口腔内に関心を持ち歯科衛生士として必要な基礎項目を習得しながら、歯科保健指導に求められる知識を理解し、技術を体得する。				
到達目標	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 歯科衛生				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	総論	歯科保健指導概要 ①歯科保健指導の定義 ②歯科保健指導論の考え方 ③歯科保健指導の法的な位置づけ
	2	総論	健康の概念 ①健康とは ②日本の健康増進対策 予防の概念 ①第一次予防 ②第二次予防 ③第三次予防
	3	歯科保健指導の基礎知識	口腔機能 ①口腔の機能 ②摂食・嚥下の仕組み
	4	口腔内の付着物・沈着物	①デンタルプラークの特徴 ②口腔内の付着物・沈着物の特徴 ③付着物・沈着物の除去方法 ④バイオフィルムの特性
	5	デンタルプラークの分類と形成過程	①デンタルプラークの構成成分 ②デンタルプラークの形成過程 ③歯石の構成成分 ④歯石の形成過程
	6.7	歯科保健指導実施のための基礎知識	行動変容の要素とそのステップ ①歯科専門知識の習得 ②行動変容に関する理論 ③行動変容を促す行動理論の実践
	8.9		食生活指導の基礎 ①食生活及び食習慣の把握 ②食品と齲蝕発生 ③咀嚼と食品
	10	口腔内観察 ①O'learyのブラークコントロールコード	①O'learyのブラークコントロールコードの観察部位 ②O'learyのブラークコントロールコード 正しく算出
	11	口腔観察 ②OHI・OHI-S	①OHI・OHS-Sの観察部位 ②OHI-OHI-S集計表の見方と計算方法
	12	歯科衛生士介入としての歯科保健指導	①歯ブラシ、歯磨剤（基本成分・薬用成分・フッ化物配合歯磨剤）
			①ブラッシング方法（毛先磨き）

授業計画	13・14	歯科衛生介入のための 歯科保健指導	②ブラッシング方法（わき腹磨き）
	15・16		①ブラッシング方法（毛先磨き） ②ブラッシング方法（わき腹磨き） マネキン実習
	17・18		①補助的清掃用具・口腔ケア用品・ 洗口剤・保湿剤
	19・20	口腔管理に関わる指導	①歯垢染色剤、PCR（講義・実習）
	21・22	歯科衛生士介入のための 歯科保健指導	企業実習 日本歯磨工業会(歯磨剤)
	23・24		企業実習 株式会社GC
	25・26	対象者別の歯科保健指導 妊産婦期	①妊産婦期の一般的特徴 ②妊産婦期の口腔の特徴 ③妊産婦期に必要なケア
	27・28	対象者別の歯科保健指導 新生児・乳児期	①乳幼児期の一般的な特徴 ②乳幼児期の口腔の特徴 ③乳幼児期の口腔の発達について
	29・30	対象別の歯科保健指導 幼児期	①幼児期の一般的特徴 ②幼児期の口腔の特徴 ③幼児期に必要な歯科保健行動
	31・32	対象者別の歯科保健指導 学童期・青年期	①学童期と青年期の一般的な特徴 ②学童期と青年期の歯科保健行動と口腔衛生指導
	33・34	対象者別の歯科保健指導 成人期	①成人期の一般的な特徴 ②成人期の歯科保健行動と口腔衛生指導
	34・35	対象者別の歯科保健指導 老年期	①老年期の一般的な特徴 ②老年期の歯科保健行動と口腔衛生指導
	36・37	歯科衛生アセスメントとしての情報収集と情報整理	①患者からの情報収集 ②医療面接 ③全身の健康状態の把握
	38・39		④認知機能の把握 ⑤生活環境と生活背景の把握
	40・41		⑥口腔の器質的問題の把握 ⑦口腔機能的問題の把握
	42・43	歯科衛生介入としての歯科保健指導	③生活習慣の指導（非感染性疾患・喫煙者に対する指導）
	44・45	ブラッシング実技試験・まとめ	

科目名			分野	教育内容	
歯科保健指導Ⅱ			専門	歯科保健指導論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	1	30	講義／実習	○
授業の目的	年代別疾患別の特徴を理解し動の変容を促す指導法を習得し、コミュニケーション能力の向上を測る。				
到達目標	歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1.2	歯科衛生介入としての歯科保健指導	③生活習慣の指導（非感染性疾患・喫煙者に対する指導）
			④ストレスマネジメント
	3.4	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生過程の概要（歯科衛生過程とは6つの要素など） 歯科衛生過程の構成要素（歯科衛生アセスメント・診断・計画・介入・評価・記録）
	5.6	歯科衛生過程の進め方	グループワーク（症例検討）
	7.8	歯科衛生過程の進め方	グループワーク（症例検討）（症例発表）
	9.1	配慮を要する者への歯科衛生介入	要介護高齢者（一般的特徴・口腔の特徴・歯科保健指導・食生活の特徴と栄養・食生活指導）
	11.12	地域保健活動における健康教育	健康教育の概念・健康教育の進め方・健康教育の方法 健康教育の評価
	13.14 15	地域歯科保健活動のフィールド 健康教育媒体づくり（保育園）	①保育所（園）・幼稚園（健康教育・学習指導案） ②媒体作成

科目名			分野	教育内容	
歯科保健指導論Ⅲ			専門	歯科保健指導論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	2	60	講義／実習	○
授業の目的		生涯を通じた口腔保健管理のために現場での実際の活動を通して、歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。			
到達目標		歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。口腔清掃状態の指標を評価する。対象者に応じたコミュニケーションができる。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論 ・ 歯科保健指導論 医歯薬出版			
評価方法		学修成果評価、筆記試験			

	回数	項目	授業内容
授業計画	1 - 4	口腔機能管理	口腔機能向上プログラム 集団アプローチの方法 お口の体操
	5 - 8	口臭予防・喫煙支援	口臭の分類 口臭の検査 喫煙と関係のある口腔疾患および症状
	9-12	対象別の口腔衛生指導	補綴物、矯正矯正装着患者への指導 対象別症例検討 症例に対する問題点
	13-14	実習	対象別口腔衛生指導演習
	15-16	実習	対象別症例検討演習
	17-22	大規模災害被災者への支援	災害と避難施設 災害時の歯科保健医療 アセスメントと保健活動 災害時に発生する歯科的問題 災害時の他職種連携
	23～24	集団指導法	対象者の把握 指導案の作成 原稿の作成 教育媒体の作成
	25-30	実習	集団指導演習

科目名			分野	教育内容	
栄養指導学			専門	歯科保健指導論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	1	30	講義	○
授業の目的	栄養学の基礎知識と栄養指導及び食生活指導の実技について学ぶ。				
到達目標	ライフステージ別に必要な栄養を選択できる知識を習得する。栄養アセスメントを通じて幼少期から老年期の食事指導を行うことができる。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	栄養の基礎知識	健康維持のために栄養の知識を学ぶ 物摂取における栄養
	2	食事摂取基準	基礎代謝と食事摂取基準
	3	五大栄養素の働き	五大栄養素概説
	4	栄養素としての糖質	糖質の種類 栄養素としての糖質の意義について説明する
	5	栄養素としてのタンパク質	タンパク質の働き
	6	栄養素の働き	ビタミンの種類と分類および機能について説明する
	7	栄養素の働き	ミネラルの種類と分類および機能と水の特性 カルシウムの調節機構について説明する
	8	国民の健康と栄養	食育について
	9	食べ物と健康	食品の成分と分類
	10	栄養素の消化と吸収	消化酵素について説明する 消化後の栄養素の吸収機構について説明する
	11	食事摂取基準	個人のエネルギー必要量の求め方 摂取量の評価方法
	12	食事バランスガイド	食事バランスガイドについて説明する 望ましい食事の組み合わせ
	13	ライフステージ別食生活	成長期、成人期の食生活の特徴 高齢期の食生活の特徴
	14	食品の成分と分類	食品の3つの機能にについて説明する
	15	食べ物と健康	摂食嚥下機能に応じた食事形態について説明する

科目名			分野	教育内容	
歯科診療補助論Ⅰ			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	60	講義/実習	○
授業の目的		歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。全身的疾病を理解した上で対象年齢に応じた患者への接し方を学ぶ。			
到達目標		歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。			
教科書		歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 生学シリーズ 歯科材料 歯科衛			
評価方法		学修成果評価、筆記試験			

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科診療補助概論	歯科診療補助の意義 1) 補助と介助の違い 2) 歯科衛生士の行う歯科診療の補助
	2	器材拭きガーゼ作製	身だしなみ 実習に必要な器材拭きガーゼの作製
	3	医療安全と感染予防	滅菌と消毒 1) 医療安全の概念と対策 2) 歯科医療における感染症の概念と対策 3) スタンダードプレコーション 4) 滅菌と消毒の定義と種類 5) 医療廃棄物の分類
	4	歯科診療の流れ	歯科医院の一日の流れ 歯科診療室の器材 歯科材料の種類
	5	歯科医療における基礎知識	手指消毒方法 1) グローブの装着・脱着の手順 2) 滅菌物の取扱いと管理 3) 滅菌パックシーラーの取扱い
	6	共同作業	共同動作の概念 1) 歯科用ユニットの構造、機能 2) 術者・補助者・患者のポジショニング 3) 診療時のライティング
	7	共同動作の実際	患者誘導 歯科用ユニットの操作
	8～10	共同作業の実際	フォーハンデッドデンティストリー 器具の受け渡し 実習 器具の受け渡し ①ペングリップ ②パームグリップ ③その他

授業計画	11	共同作業の実際	バキュームテクニック スリーウェイシリンジテクニック
	12	歯科材料の基礎知識	歯科材料と歯科衛生士 所要性質と基本的性質
	13	衛生材料	ロールワッテ・洗浄用綿球作製 塗布用綿球・掃除用綿球 ブローチ綿栓
	14～18	印象材の取扱い	印象材の基礎知識 1) 種類と特徴 2) 印象採得時の補助 印象材の取扱い アルジネート印象材による概形印象採得 1) 水温変化の実験 2) 混水比の実験
	19	印象材の取扱い	寒天印象材の基礎知識 1) スパチュラ、ラバーボールの把持 2) スパチュラの動かし方
	20	印象材の取扱い	計量 練和 気泡抜き
	21	印象材の取扱い	回転トレー、上顎、下顎トレーへの盛り付け
	22	寒天印象材	寒天印象材の取扱い 寒天・アルジネート連合印象採得
	23	合成ゴム質印象材	ポリサルファイドゴム印象材など シリンジの取り扱い
	24	その他の印象材	モデリングコンパウンドなど
	25	歯科用石膏	模型用材料の基礎知識 歯科用石膏の種類と性質 模型の用途
	26	模型材石膏	石膏模型材 実習
	27	ラバーダム防湿	ラバーダム防湿の基礎知識 1) 目的と利点・欠点 2) 器具の名称と用途 ラバーダム防湿の取扱い 1) 手順
	28	ラバーダム防湿	実習 1) 2歯露出 2) 1歯露出
	29	歯肉圧排	基礎知識 1) 歯肉圧排用薬剤の種類 2) 歯肉圧排の手順 3) 歯肉圧排用材料 実習 1) 機械的歯肉圧排法
授業計画	30	隔壁	基礎知識 1) 窩洞の名称 2) 隔壁法 3) 歯冠分離法 実習 1) タッフルマイヤー型リテーナーの取扱い 2) リテーナーへの装着

科目名			分野	教育内容	
歯科診療補助論Ⅱ			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	3	90	講義／実習	○
授業の目的	歯科診療が安全に行われるための知識と技術を習得する。全身的疾病を理解した上で対象年齢に応じた患者への接し方を学ぶ。				
到達目標	歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 生学シリーズ 歯科材料 歯科衛				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	ワックス	基礎知識、種類、用途
	2	合着材・接着材	基礎知識 種類と用途 所要性質 余剰セメントの除去
	3～5	合着材	リン酸亜鉛セメント 1) 成分と特徴 2) 取扱い 実習 ポリカルボキシレートセメント ガラスアイオノマーセメント 1) 成分と特徴 2) 取扱い
	6～8	接着剤	接着性レジンセメント 1) 特徴と種類 操作手順 応用例
	9～11	仮封材・仮着	仮封材・仮着材・暫間修復材 用途、種類 暫間修復材の取扱い プロビジョナルレストレーション 仮着用セメント 取扱い方法 セメント泥の盛り付け方 実習 既製冠へのセメント泥の盛り付け

授業計画	12～14	仮封材	仮封と暫間修復の違い 目的、所要性質 仮封材の種類と仮封法 各種材料の取扱い方法
	15・16	実習	テンボラリーストッピング 仮封用軟質レジン 水硬性仮封材
	17～20	仮封材	酸化亜鉛ユージノールセメント 1) 成分、用途 2) 特徴（利点・欠点） 3) 取扱い方法
	21～24	実習	酸化亜鉛ユージノールセメント リン酸亜鉛セメント ガラスアイオノマーセメント
	25	根管充填用セメント	目的・種類・取り扱い方法
	26	裏層材	ライニングとベースの違い 種類・取り扱い方法
	27	歯科補綴に関わる材料	人工歯・義歯床用レジン・ブリッジ・インプラント に使用する材料
	28	義歯床用裏層材	リラインとリベース 裏層材 粘膜調整剤 適合試験材
	29	歯周パック材	目的・種類・取り扱い方法 貼付方法 患者指導
	30	切削用機器	切削・研削・研磨の定義 電気エンジン、マイクロモーター、エアータービンの 違いと用途 切削・研削・研磨用器具
	31～33	保存修復治療時の補助	トレーセッティング（直接修復） 1) コンポジットレジン修復 トレーセッティング（間接修復） 1) インレー形成、印象採得 2) インレー合着
	34	歯内療法時の補助	歯髄処置 根管処置
	35	歯周療法時の補助	フラップ手術
	36	補綴治療の補助	遊離端部分 クラウン・ブリッジ インプラント
	37～40	歯科口腔外科治療時の補助	普通抜歯手術 埋伏抜歯手術 歯槽骨整形手術 歯根端切除術 消炎手術 持針器・縫合針の取扱い
授業計画	41	小児歯科治療時の診療補助	小児の診療と診療補助の特徴
	42	矯正歯科治療時の補助	矯正治療と診療補助の特徴
	43	歯科訪問診療室の補助	歯科訪問診療の流れ
	44・45	周術期における歯科診療の補助	病態の把握 治療時の対応

科目名			分野	教育内容	
歯科診療補助論Ⅲ			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	2	60	講義／実習	○
授業の目的	歯科診療補助および歯科衛生士の役割を再確認し、知識と技術を統合する。歯科診療の高度化に伴い歯科衛生士として歯科診療補助業務を効果的に行うために、さらに専門的な知識と技術を習得する				
到達目標	歯科診療補助が安全にかつ、円滑に行われるように歯科治療の流れを把握し、器具器材、薬品について学習し技術を習得する。				
教科書	最新歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 最新歯科衛生学シリーズ 歯科機器 最新歯科衛生学シリーズ 歯科材料				
評価方法	学修成果評価、筆記試験				

		項目	授業内容
授業計画	1・2	高齢者歯科学実習	食事介助 バイタルサインの評価
	3・4	高齢者歯科学習	移乗 講義／実習
	5・6	高齢者歯科学習	介助磨き 講義／実習
	7・8	高齢化歯科学習	バイタルサインの評価 講義／実習
	9	バキュームテクニック	相互実習
	10・11	概形印象採得	知識の整理 実習の流れ 相互実習
	12・13	石膏模型の制作実習	石膏模型台付け・基底部の形成、石膏模型のトリミング 石膏模型の修復
	14・15	コンポジットレジン修復	知識の整理、相互実習
	16・17	仮封材	知識の整理、相互実習
	18	スポーツ歯科の目的	歴史、スポーツ歯科の現状
	19	スポーツと顎口腔領域の外傷	スポーツ外傷の予防法
	20・21	歯科におけるレーザー治療	種類と特徴 歯科におけるレーザー治療の応用

授業計画	22	主な全身疾患とその対応	基礎知識と歯科診療上の注意点
	23・24	審美歯科治療	美の概説 審美歯科の概説
			ホワイトニング
	25・26	インプラント治療	インプラントのメンテナンス（基礎知識） インプラントのメンテナンス（インプラント周囲組織）
	27・28	周術期における歯科診療の補助	周術期における歯科衛生士の対応
	29・30	歯科訪問診療における対応	歯科訪問の診療補助の概要 1）歯科衛生士の役割 2）口腔健康管理 歯科訪問診療の流れ

科目名			分野	教育内容	
歯科材料学			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	×
授業の目的	歯科生体材料および生体材料を含む歯科材料の概要，性質，変化，成形理論などを学び，歯科機器の概要，取り扱いなどを学ぶ。				
到達目標	歯科生体材料，歯科材料および歯科機器を臨床現場で応用できる知識を習得する。				
教科書	最新歯科衛生学シリーズ 歯科材料（医歯薬出版）， 最新歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版）				
評価方法	単位試験，出席状況，受講態度，小テストなどによる総合評価				

	回数	項目	授業項目
授業計画	1	総論：歯科生体材料， 生体材料，歯科材料	歯科生体材料，生体材料，歯科材料の概要 金属，高分子，セラミックス
	2	歯科生体材料， 歯科材料	歯科生体材料，歯科材料の基本的性質 金属，高分子，セラミックス
	3	各論：成形修復材料 1.	成形修復材料の種類，組成 コンポジットレジン，グラスアイオノマーセメント
	4	成形修復材料 2.	成形修復材料の性質
	5	成形修復材料 3.	成形修復材料の取り扱い
	6	印象材 1.	印象材の種類，組成 弾性印象材，非弾性印象材
	7	印象材 2.	印象材の性質，取り扱い
	8	模型材 1.	模型材の種類，組成 普通石膏，硬質石膏，超硬質石膏
	9	模型材 2.	模型材の性質，取り扱い
	10	合着・接着材 1.	合着・接着材の種類，組成 歯科用セメント
	11	合着・接着材 2.	合着・接着材の性質，取り扱い
	12	その他の材料， 歯科機器 1.	その他の材料，歯科機器の種類 インプラント，仮封材，ワックス，歯科用ユニットなど
	13	その他の材料， 歯科機器 2.	その他の材料，歯科機器の基本的性質
	14	研 磨	研磨の方法，原理 切削，研削，研磨
	15	歯科材料学のまとめ	歯科材料学全般についてのまとめ

科目名			分野	教育内容	
臨床検査学			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義	○
授業の目的	医療従事者として必要とされる基本的な臨床検査について知識、技能、態度を習得する。				
到達目標	医療人として経験すべき診察法・検査・手技・経験すべき症状・病態・疾患ならびに特定の医療現場の経験を身に着ける。				
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業項目
授業計画	1	臨床検査とは	臨床検査の必要性について説明する
	2	臨床検査の実際	種類と特徴
	3・4	生体検査	体温、脈拍、血圧 新機能検査、肺機能検査、筋電図検査
	5・6	尿検査法	24時間蓄尿、早期空腹時尿、中間尿などの採取法 とその意義
	7・8	血液検査	血液検査、血液凝固検査、生化学検査 免疫検査、血液検査、感染症検査
	9	採血の手順、血液型検査	静脈からの採血の方法
	10・11	感染症、肝機能、糖尿病の検査	白血球数の正常値と測定法 血液像について説明する
	12・13	口腔領域の検査	口臭、味覚、歯科アレルギー検査 舌、口腔粘膜、唾液の検査 歯周病、歯、根管内培養検査
	14	摂食・嚥下関連の検査	摂食・嚥下関連のスクリーニングテスト 摂食・嚥下障害の検査法
	15	まとめ	今までの内容を整理する

科目名			分野	教育内容	
医療安全			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	30	講義	○
授業の目的	安全な医療を提供できる知識と能力をを習得する目的。				
到達目標	患者中心の質の高い、安全な医療を提供するために医療安全の必要性、重要性を認識し、必要な知識、技術を習得する。				
教科書	歯科衛生士のための 歯科医療安全管理 第2版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	歯科医療安全管理 国家試験過去問	アクシデント インシデント ヒヤリハット ハインリッヒの法則
	2	歯科医療安全管理 国家試験過去問	I 医療法の第5次改正とその後 マネジメントの進め方
	3	リスク関係	リスクやミスを共有するコミュニケーション 病院における医薬品安全管理の補佐
	4	医療機器の安全管理	II 医療機器の安全管理 医療機器機器安全管理のための研修
	5	院内感染対策	III 院内感染対策 院内感染対策体制の改善
	6	病院における院内感染	病院における院内感染対策の留意点 滅菌消毒業務管理の基本
	7	歯科診療訪問における感染対策	IV 歯科訪問診療における感染対策 針刺し切創防止対策
	8	感染廃棄物	V 感染性廃棄物の管理・特別管理 産業廃棄物管理 移動時の配慮
	9	施設管理	施設管理 推奨される掲示物
	10	医療情報	I 医療情報・個人情報における基本的な考え方 個人情報プライバシー
	11	個人情報の取り扱いについて	II 個人情報の取り扱いについて 情報の廃棄
	12	医療事故・医療過誤	I 医療事故・医療過誤・インシデント なぜコミュニケーションエラーがおきるか
	13	医療コミュニケーション	医療コミュニケーションの三大コアスキル インシデント・アクシデント事例
	14	クレーム背景としたトラブル	クレームを背景としたトラブル防止 事例
	15		

科目名			分野	教育内容	
放射線学			専門	歯科診療補助論	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	後期	1	30	講義・実習	○
授業の目的	エックス線についての正しい知識を身に着け、患者に不安を与えないよう適切に行動できるよう学ぶ。				
到達目標	エックス線の人体への影響の発生の危険性とその防護法について理解する。				
教科書	わかりやすい歯科放射線学第3版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	放射線とエックス線の基本 基本的知識	放射線について 放射線の種類 放射線の発生
	2	エックス線の発生	エックス線の発生原理
	3	放射線の影響	生体に対する影響
	4	歯科用エックス線撮影装置	口内法のエックス線装置
	5	エックス線画像の形成	エックス線フィルムの基本的構造 口内法と口外法の撮影に必要なフィルムと器材
	6・7	口内法撮影	口内法撮影について説明する 準備、誘導について説明する 口内法の撮影法 エックス線照射とその後の注意 フィルムの現像と保管方法
	8・9	口外法エックス線撮影と特殊 腫瘍	パノラマエックス線撮影と正常像 造影検査法
	10	フィルム処理	フィルム処理の流れ 現像方法 処理液の交換と廃液の処理
	11	デジタルエックス線システム	デジタルエックス線撮影の特徴と種類
	12	病変の画像例	歯及び歯周組織の疾患 顎・顔面領域の疾患
	13・14	放射線防護の理念と実際	放射線防御の目的 被爆の分類 放射線防御の実際
	15	放射線治療	放射線治療について説明する 放射線治療の種類と方法 副作用について

科目名			分野	教育内容	
早期臨床実習			専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	後期	1	45	臨床実習	○
授業の目的	歯科医院とはどのようなものか、将来自分がどのように医療に携わっていくのか、そのために何を学ばよいか見学実習を通して理解する。将来目指す歯科衛生士職の動機付けを目的とする。				
到達目標	実体験を通して専門的能力を習得する。医療従事者としての基本姿勢や倫理規範を学ぶ。				
教科書	各科目の教科書 臨床実習ノート				
評価方法	学修成果評価				
	授業内容				
授業計画	早期臨床実習の概要説明 歯科診療所における早期臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。 見学実習後は各自がレポートにまとめるため、学んだことや、気づいたことをメモに残し整理しておく。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。 ・時間厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務 ・体調管理				

科目名			分野	教育内容	
臨床実習Ⅰ			専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による 授業科目
2	後期	8	360	臨床実習	○
授業の目的	臨床の場において歯科衛生士業務に必要な歯科予防処置、歯科保健指導、歯科診療補助等基本技術の学びを深める。				
到達目標	症例にあわせたアシスタントワークができる。実習先のスタッフや患者様とコミュニケーションがとれる。				
教科書	各科目の教科書 臨床実習ノート				
評価方法	学修成果評価				

	授業内容
授業計画	臨床実習の概要説明 歯科診療所における臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。 実習した内容を正しく理解し把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を実習日誌に記録し、指導者より点検及び指導を受ける。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。 ・時間の厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務 ・体調管理 診療体系を理解し、実践できる ・診療前準備、後片付け

授業計画	・ 患者の受診準備 ・ 基本的診査器具 ・ 診査診断の補助 ・ 診療の流れに応じた補助・介助 ・ 使用機材の管理 ・ 薬剤の種類、用途、保管方法 ・ 消毒・滅菌方法 ・ 防護法の実際 ・ 医療廃棄物の実際 他職種業務を理解し、チーム医療を実践する。 感染予防対策を理解し、実践する。 患者への接し方を理解し、実践できる。
------	---

科目名			分野	教育内容	
臨床実習Ⅱ			専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による 授業科目
3	前期	10	450	臨床実習	○
授業の目的	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。歯科医療の現場で学内での学びを総合的にとらえ基本技術、知識を向上させる。				
到達目標	症例にあわせたアシスタントワークができる。実習先のスタッフや患者様とコミュニケーションがとれる。				
教科書	各科目の教科書 臨床実習ノート				
評価方法	学修成果評価				

	授業内容
授業計画	臨床実習の概要説明 歯科診療所、病院における臨床実習 ・説明と目標 【授業形態】 ・2人1組にて見学実習を行う。 実習後には学習した点、疑問点など明確にし、その結果を各自レポートにまとめる。 【履修上の注意】 見学実習にあたっては見学実習先の概要や業務について調べ、見学のポイントや質問事項をまとめておく。 実習した内容を正しく理解し把握するためにその内容、必要器材、手順、注意事項を実習日誌に記録し、指導者より点検及び指導を受ける。 【全体の行動目標】 歯科衛生士の基本姿勢を実施できる。 ・時間厳守 ・自己の健康管理 ・言葉づかい ・身だしなみ ・守秘義務 ・体調管理 診療体系を理解し、実践できる ・診療前準備、後片付け

授業計画	・ 患者の受診準備 ・ 基本的診査器具 ・ 診査診断の補助 ・ 診療の流れに応じた補助・介助 ・ 使用機材の管理 ・ 薬剤の種類、用途、保管方法 ・ 消毒・滅菌方法 ・ 防護法の実際 ・ 医療廃棄物の実際 他職種業務を理解し、チーム医療を実践する。 感染予防対策を理解し、実践する。 患者への接し方を理解し、実践できる。
------	---

科目名			分野	教育内容	
臨地実習			専門	臨地実習（臨床実習を含む）	
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による 授業科目
3	前期	2	90	臨地実習	○
授業の目的	2年生の臨床実習で習得した、基本技術、知識をより向上させる。公衆衛生活動における福祉施設との役割を理解し、利用者の口腔ケアの重要性を理解し、援助できる技術を修得する。				
到達目標	各施設における歯科衛生士の業務を実践することで歯科衛生士の役割を理解する。指導者の指示のもと、自ら考えて行動できるようになる。				
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート				
評価方法	学修成果評価				
	授業内容				
授業計画	臨床実習の概要説明 保健センター、保育園、社会福祉施設における臨床実習 1) 実習の目的と計画 【障害者歯科】 障害者の口腔機能の向上と、Q O L の向上に必要な口腔ケアの技能を習得するために、本人および介助者への対応と援助の能力を養う。 ・ 障害者の要介護度と全身状態の理解 ・ 障害者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・ 専門的口腔ケアの見学及び介助 【介護老人保健施設・特別養護老人ホーム】 要介護高齢者の精神的・身体的特徴および、口腔機能・口腔内の特徴を理解したうえでの歯科衛生士の取り組み方と具体的な 口腔機能評価、手技、対応を学ぶ。 ・ 施設利用者の要介護度と全身状態の理解 ・ 施設利用者の口腔内と口腔ケア内容の理解 ・ 専門的口腔ケアの見学及び介助 【保育園実習】 児童への口腔衛生活動を円滑に展開するために、心身の発達や学習段階、日常生活行動などを理解し、その対応法を学ぶ。 児童と円滑なコミュニケーションを取る能力を養う。 ・ 年齢に合わせた歯科保健指導案の作製 ・ 児童に対する口腔衛生集団指導の実施				

科目名			分野	教育内容	
介護技術学			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
2	前期	2	30	講義	○
授業の目的	基礎介護技術について根拠を学び、より安全に実践できる能力を身に着ける。また、個人の尊厳を尊重した介護ができる能力を学ぶ。				
到達目標	長寿社会にあたり医療、福祉の連携を十分に理解し、より実践的なサービス習得する。				
教科書	こだわりのポイントはココ！からだを正しく使った移動・移乗技術				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	介護概論	介護の基本的な理念
	2	健康状態の把握	血圧、脈拍、呼吸測定
	3・4	介護の基本	居室の環境整備 住宅改修・福祉用具
	5・6	介護の基本	介護に関係した体の構造や機能の基本 体位変換 ボディメカニクスについて説明する
	7	基本介護技術	人体の構造と機能について説明する
	8・9	基本介護技術	衣類の着脱介助、褥瘡、廃用症候群 視覚障がい者の歩行介助 食事介助
	10	清潔の介助	部分清拭、足浴
	11	清潔の介助	手浴、爪切り等
	12・13	移動介助	車いすの各部位と名称と点検方法 車いすの扱い方、ベッドから車いすの移乗介助の方法
	14	介護における口腔ケア	口腔ケアと薬の投与方法について説明する
	15	ケア計画の作製と記録および報告	ケアマネジメントの視点と方法

科目名			分野	教育内容	
リハビリテーション学			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	2	30	講義	○
授業の目的	歯科診療だけでなく訪問歯科診療時に高齢者や各疾患患者理解との身体補助方法を学び、より安全に歯科医師の補助ならびに歯科衛生士業務が行えるよう学ぶ。				
到達目標	リハビリテーションに必要な基本的な知識や技術を習得する。				
教科書	リハビリテーション概論 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	リハビリテーション学概論	リハビリテーションの歴史
	2	リハビリテーションの理念	障がい論、3つの障害（機能的、能力的、社会的不利）について説明する ICIDH、ICFの定義と概念
	3～6	チーム医療としてのリハビリテーション	リハビリテーションにおける医学的スタッフ・社会的スタッフについて説明する チームとして歯科衛生士の役割を理解する 職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーション 教育的リハビリテーションについて説明する
	7～9	リハビリテーションに関わる疾患	脳血管障害の病態と障害像について説明する 整形外科（運動器）疾患と障害像について説明する 内部障害（心疾患・呼吸器・代謝）と障害像について
	10	認知症や高齢者の特性	認知症の対応について 高齢者のロコモティブシンドローム、フレイルについて
	11	福祉用具と住宅改修	福祉用具各種類、使用方法について説明する 住宅改修の理解と方法について
	12	転倒予防、地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの概念 高齢者の転倒予防事業について説明する
	13	片麻痺での介助（実習）	片麻痺での起き上がり・車いすからベッドへの介助
	14	高齢者・障がい者の介助（実習）	寝返り、立ち上がり、移乗方法、歩行介助を実践
	15	まとめ	今まで学んだことの振り返り

科目名			分野	教育内容	
摂食・嚥下機能療法			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	1	15	講義	○
授業の目的	摂食・嚥下障害を理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチにおいて、歯科衛生士として役割を果たすことができる知識と技能を修得する。				
到達目標	1. 摂食嚥下の基本的知識を理解し、摂食嚥下機能のメカニズムについて説明する。 2. 摂食嚥下障害の診査、検査、評価、診断について説明する。 3. 摂食嚥下リハビリテーション、口腔への対応について説明できる。 4. 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を説明できる。				
教科書	歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 医歯薬出版				
評価方法	筆記試験80%、小テスト10%、講義参加姿勢10%の結果に基づき総合的に評価する。				

	回数	項目	授業内容
授業計画		摂食嚥下の基本的知識 (貴島 9/5)	摂食・嚥下とは 摂食嚥下に関わる器官、解剖学的構造について説明する
		摂食嚥下機能のメカニズム (貴島 9/5)	正常な摂食嚥下運動について説明する。 摂食嚥下機能のメカニズムを説明する。
		摂食嚥下機能の診査、検査、評価、診断 (貴島 9/12)	摂食嚥下機能評価について説明する。
		病態別摂食嚥下障害 (貴島 9/12)	小児・障害児における摂食嚥下障害 成人・高齢者における摂食嚥下障害
		オーラルフレイルと口腔機能低下症 口腔機能管理・口腔衛生管理・口腔ケア (今井 9/19)	オーラルフレイルの定義と全身に及ぼす影響 口腔機能低下症について説明する。 成人・高齢者の口腔健康管理について
		摂食嚥下障害の訓練とリハビリテーションの実際 (今井 9/19)	摂食嚥下リハビリテーション (間接訓練・直接訓練) 摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割 とチームアプローチ
		摂食嚥下障害と栄養管理 (貴島 9/26)	摂食嚥下障害に必要な口腔への対応
		摂食嚥下障害と栄養管理 (貴島 9/26)	摂食嚥下障害者の栄養管理と低栄養への対応

科目名			分野	教育内容	
救急処置			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
1	通年	2	30	講義／実習	○
授業の目的		歯科衛生業務を行うために必要な救急蘇生法を学ぶ。			
到達目標		生命徴候のアセスメントができる。歯科治療における偶発症の理解と対応ができる。救急時BLSの知識の獲得、AEDの正しい使用方法がわかる。吸引法の知識と技術方法がわかる。			
教科書		資料配布			
評価方法		実技試験・レポート			
	回数	項目	授業内容		
授業計画	1	歯科治療における偶発症	歯科治療中の全身的偶発症 歯科治療時の不快事項		
	2	一次救命処置	心肺蘇生法 CPR・胸骨圧迫と人工呼吸		
	3	バイタルサイン	血圧・脈拍・体温		
	4	バイタルサイン	呼吸・動脈血酸素飽和度 グループにて血圧・脈拍・呼吸・酸素飽和度実習		
	5	小児の窒息対応	乳児および小児に対するBLS 乳児の脈拍測定		
	6	小児の窒息対応	胸骨圧迫・人工呼吸 気道異物除去		
	7	救命処置技術の習得と維持	一次救命処置の重要性 蘇生教育		
	8	まとめ①	聴診器取り扱い バイタルサイン（血圧・脈拍・体温）		
	9	まとめ①	呼吸・酸素飽和度 聴診器・バイタルサインの実習		
	10	～心肺蘇生について～	CPRについて 救急処置事例について		
	11	まとめ②	神経性ショック 過換気症候群・異物除去の誤飲・誤嚥		
	12	まとめ②	糖尿病 胸部痛・アナフィラキシーショック		
	13	心肺蘇生法の実技	胸骨圧迫・人工呼吸・AED説明・実技（練習）		
	14	心肺蘇生法の実技	実技試験の説明・練習 実技試験		
	15	まとめ③	成人一次救命処置・小児一次救命処置 一次救命処置のポイント・まとめ レポートの説明		

科目名			分野	教育内容	
災害歯科衛生士支援論			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	1	15	講義	○
授業の目的	災害が発生したときに、歯科衛生士としてどのようなことができるのか。過去における大規模災害を通して、災害ということを考えるとともに歯科衛生士の活動について理解し述べるができる。				
到達目標	1. 災害とは、について説明できる 2. フェーズの分類が説明できる 3. 災害発生時の医療、歯科医療を理解する 4. 災害発生時の歯科衛生活動を説明できる				
教科書	教資料配布				
評価方法	筆記試験				

	回数	項目	授業内容
授業計画	1	災害とは	災害について説明し、過去の大規模災害を通して、歯科衛生士会の活動等について説明する
	2	フェーズの分類	フェーズの分類を把握したうえで歯科衛生活動について考える（グループワーク）
	3	災害時の医療、歯科医療	災害時の医療及び歯科医療について学ぶ
	4	ビデオ視聴	過去の大規模災害時のビデオを視聴し、災害活動及び歯科衛生活動を考える（グループワーク）
	5・6	日本における歯科衛生活動	日本歯科衛生士会の歯科衛生活動等について説明し、活動の仕方を考える
	7	日本における歯科衛生活動	日本歯科衛生士会の活動等を参考に、再度歯科衛生活動について考える
	8	まとめ	授業を学んだうえで、歯科衛生士として災害時に何ができるのか、グループワーク（レポート提出）

科目名			分野	教育内容	
卒業考査			選択必修		
学年	開講学期	単位	時間	授業方法	実務経験のある教員による授業科目
3	後期	1	15	講義	○
授業の目的	国家試験対策として過去の国家試験出題問題を精査し、繰り返しの学習を徹底して知識の定着を図る。				
到達目標	学生の習熟度による個別的指導を行い確実に国家試験に合格できる学力をつける。				
教科書	国家試験問題資料				
評価方法	筆記試験				

		項目	授業内容
授業計画	1	国家試験対策	国家試験の傾向と対策 ・ 問題数の多い科目の出題傾向 ・ 難易度の問題に注目する ・ 類似問題を活用する
	2	国家試験対策	・ 人体の構造と機能
	3・4	国家試験対策	・ 人体の構造と機能 ・ 歯・口腔の構造と機能 ・ 成り立ち及び回復過程の促進
	5	国家試験対策	・ 歯・口腔の健康 ・ 予防に関わる人間と社会の仕組み
	6	国家試験対策	・ 歯科衛生士概論 ・ 臨床歯科医学 1
	7	国家試験対策	・ 臨床歯科医学2
	8	国家試験対策	歯科予防処置論／歯科保健指導／歯科診療補助